

もっともしあわせな永遠の出会い

歌は、言葉やメロディ、リズムだけでなく、声の表情や息遣い、空気や色彩、趣きや情緒など、ありとあらゆるものを運ぶ。だからこそ国境や人種を超えて、伝わりもすれば、響き合もする。

偶然出会ったリリアナ・エレロの歌に激しく心を奪われた鈴木亜紀が、リリアナに会うために地球の裏側のアルゼンチンまで出かけ、出会った二人

は意気投合。そして今度は鈴木亜紀に誘われ、リリアナが日本までやって来て、二人でコンサートを開く。歌にポータレスな力があるからこそ実現したできごとだ。

しかもリリアナ・エレロと鈴木亜紀、二人の歌に共通するのは、ひとつの時代、ひとつの状況にとどまることなく、現在を歌いつつも、過去を甦らせもすれば、

未来も引き寄せる、エージレスなものだということ。

国境も時間も、すなわち時空を超えて、歌の力が作り出した、もっともしあわせな永遠の出会いを、ほくらは2006年の秋というひとときに体験することができる。

音楽ライター 中川五郎



photographed by Aki Suzuki

「世界に開かれた」アルゼンチン・フォルクローレの音

歌手にして国立大学哲学科教授。軍事政権と闘いつつ音楽と教育に明け暮れ、40歳を目前にロック歌手フット・バエスのプロデュースでアルバム・デビュー、そして今年58歳にして初来日公演を果たす。

リリアナの音楽には、ユバンキ、メルセデス・ソーサをはじめ、あらゆるフォルクローレの良き伝統が吸収されている。

しかし同時にロックやジャズ界との交流、隣国ブラジルやウルグアイの音楽家との共演を通じて、彼女の音楽はさらに幅広く「開かれた」ものになった。リリアナの創り出す音楽空間は都会的でありながらもアルゼンチンの自然を感じさせ、伝統と革新の両方に根ざしたそのサウンドは、我々に限りない想像力を与えてくれる。

「自由型ピアノ弾き語り」鈴木亜紀が、遠い日本からその開かれたチャンネルに共鳴し、自身との共通点を見出したのは決して偶然ではないはず。

フォルクローレ・ファン待望のリリアナ初来日公演。それはまた「開かれた」音楽の競演でもある。

ラテンアメリカ音楽研究 西村秀人



Liliana Herrero

リリアナ・エレロ(歌)

1948年アルゼンチン・エントレリオス州生まれ。小さい頃から音楽に親しみ、18歳の時ロサリオへ上京し哲学を学ぶ一方、音楽活動も開始。1987年にアルバム・デビュー、以後ロサリオ大学哲学科教授として教鞭をとる傍ら音楽活動を続け、現在までに10枚のアルバムを発表。力強い歌声とジャンルにとられない方向性により、現代フォルクローレを代表するアーティストの一人となっている。



Aki Suzuki

鈴木亜紀(歌、ピアノ)

静岡県焼津市出身。作詞作曲演奏者。ピアノがあればどこへでも出かけて行って歌う。独自の視点で人や自然を見つめ、どこまでもオリジナルな詩とメロディーを自由奔放なピアノに乗せて歌う。アルゼンチンを放して撮ったモノクロ写真の展覧会を、2005年名古屋で開催。さらに写真詩集「旅の空 鈴木亜紀のいろいろ」も発表。表現手段は音楽だけにとどまらない。「風の告白」では歌詞対訳も行っている。

Support Musicians



Matias Arriazu

マティアス・アリアス(ギター)

1982年アルゼンチン・フォルモサ州出身。10歳からリカルド・レウ、ファン・カルロス・シリリアーノなどフォルクローレ、ジャズ、クラシックの巨匠に師事。2003年オスカル・アレマン国際コンクールで新人賞受賞。昨年よりリリアナと共演。最近では編曲の面でもユニークな才能を発揮している。初来日。



Mariano Cantero

マリアーノ・カンテロ(パーカッション)

1974年アルゼンチン・サンタフェ州出身。国立交響楽団、コロソ劇場オーケストラで活躍、デ・ラ・グアルダに参加し来日経験がある。リリアナ・エレロ・グループには2003年8月から参加。マルチな才能はリリアナの最新作「リトラル」でも遺憾なく発揮されている。他にアカ・セカ・トリオでも活動中。



Yoichi Okabe

岡部洋一(パーカッション)

A型山羊座。大学在学中にプロ活動を開始。ジャズ系、ロック系、また来日ミュージシャンとの共演など、さまざまなジャンルで活躍。現在はアバンギャルド分野での活動も盛んで、「ROVO」、「ボンデー・フルーツ」、「ザ・スリル」のメンバーでもある。今年ソロアルバム「感覚の地平線」を発表。



Keisuke Ohta

太田恵資(ヴァイオリン)

熊本生まれ。5才よりヴァイオリンを始める。鹿児島大学で化学を専攻。民族音楽やジャズ、即興演奏を得意とする。日本人離れした声にも定評があり、キャラクター、TV、映画、CMなどに使われている。またその強力な風貌ゆえか、パフォーマンス・アーティストとして舞台に立つこともあり、海外公演も多い。



Hiroshi Funato

船戸博史(ウッドベース)

京都生まれ。射手座。大学時代北欧のジャズミュージシャン、ジョン・チカイと共演後、ジャズベーシストとして活動開始。以後ジャンルに拘らず、共演ミュージシャンは多岐に渡る。95年、オランダのノースシージャズフェスティバルに出演。「ふちがみとふなと」で、2度のヨーロッパ演奏旅行。04年にはソロアルバム「LOW FISH」発表。

アルゼンチン音楽を新しい感性で聴かせるリリアナ・エレロ、国内盤発売中。



フォルクローレ名曲を、深みある声の響きと浮遊感に満ちたサウンドで聴かせるスケール豊かな傑作!

「風の告白」 OMCX-1129 定価¥2,625

解説・対訳：鈴木亜紀

ユバンキを始めとした南米の巨匠達の作品を、自己の文脈に引き寄せて静かながら圧巻ともいえるヴォーカルの「力」で表現した傑作。映画『ブエノスアイレスの夜』エンディング曲(M-11)収録。

来日記念盤・発売決定!

最新作「リトラル」(1CDヴァージョン)

9/27 発売予定

OMCX-1155 定価¥2,625 予定 解説・対訳付き

2005年に発表された2枚組大作『LITORAL』。1枚目がバラナ川流域、2枚目がウルグアイ川流域をテーマにした壮大なこの作品から、選りすぐりの曲を全14曲収録予定。



■発売：株式会社オマガトキ 東京都杉並区上荻1-23-17 03-3393-3519
E-mail: info@omagatoki.co.jp www.shinsendo.co.jp/omagatoki/

■販売：株式会社新里堂
コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社